

へき地における看護の充実に向けたへき地医療拠点病院の看護の現状と課題

問1 あなた自身について伺います。

- 1-1. 性別

1. 女性	2. 男性
-------	-------
- 1-2. 年齢

1. 30代	2. 40代	3. 50代	4. 60代	5. 70代
--------	--------	--------	--------	--------
- 1-3. 現在お勤めの病院に就職して、何年になりますか。 () 年
- 1-4. 現在の職階（看護部長）についてから、何年になりますか。 () 年
- 1-5. 看護部長職以外に、職階（副院長等）をおもちでしたら、ご記入下さい。

--

問2 貴病院の所在地について、都道府県名を () に記入して下さい。

都道府県名：()

問3 貴病院がへき地医療支援している地域の特徴として該当する番号すべてに○をつけて下さい。

1. 過疎	2. 山村	3. 豪雪	4. 島しょ部（離島）	5. わからない
-------	-------	-------	-------------	----------

問4 貴病院の設立主体について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 都道府県	2. 市町村	3. 一部事務組合	4. 地方独立行政法人
5. 公的団体（日赤、済生会、厚生連、北社協）	6. 国立病院機構	7. 医師会	
8. 社会医療法人	9. 医療法人	10. 社会福祉法人	11. その他

問5 病院の全病床数について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 99床以下	2. 100～199床	3. 200～399床	4. 400床以上
----------	-------------	-------------	-----------

問6 昨年（平成21年）度の一般病棟入院基本料の算定状況について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 7対1	2. 10対1	3. 13対1	4. 15対1	5. 特別入院基本料
--------	---------	---------	---------	------------

問7 就業形態別の看護職員数（平成22年7月1日現在）を下表に直接記入してください。

※保有している免許ではなく、採用職種でお答え下さい。

	常勤 [休業・休職含む]		非常勤 臨時雇用・パート・アルバイト等	就業者合計
		短時間正規雇用 (再掲)		
看護師				
准看護師				
助産師				
保健師				
計				

問8 今年（平成22年）度の採用に向けて、募集していた人数を下表に直接記入してください。

	新卒			新卒以外（再就職者等）				
	常勤		非常勤	計	常勤		非常勤	計
	短時間正規雇用（再掲）				短時間正規雇用（再掲）			
看護師								
准看護師								
助産師								
保健師								
計								

問9 今年（平成22年）4月に、実際に採用できた人数を下表に直接記入してください。

※保有している免許ではなく、採用職種でお答え下さい。

	新卒			新卒以外（再就職者等）				
	常勤		非常勤	計	常勤		非常勤	計
	短時間正規雇用（再掲）				短時間正規雇用（再掲）			
看護師								
准看護師								
助産師								
保健師								
計								

問10 今年（平成22年）7月の看護職員の時間外労働（所定の勤務時間を超えて働いた時間）について伺います。なお、1時間未満については、小数点以下一桁までとして記入してください。

7月1～31日における看護職員（病棟勤務・正職員）の合計時間外労働時間は、平均すると何時間ですか。

 . 時間

問11 昨年（平成21年）度における、休暇取得の状況について伺います。

11-1. 看護職員（病棟勤務・正職員・勤続1年以上）の年次有給休暇はどの程度消化されましたか。

1. ほとんど消化されなかった	2. あまり消化されなかった
3. 割と消化された	4. ほぼ消化された

11-2. 週休二日制の方に伺います。看護職員の週休を1日しか確保できない事がありましたか。

1. あった 2. なかった

11-3. 「1. あった」とご回答の方に伺います。その場合、どのように対応しましたか。

対応方法を具体的にご記入下さい。

--

問 12 看護職員への教育研修体制について伺います。

12-1. 看護部門の教育研修に関する責任者を配置していますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

12-2. 看護単位毎に、教育研修の担当者を配置していますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

12-3. 新卒看護職員研修の、企画・評価組織（委員会等）を設置していますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問 13 看護職員への教育研修体制上の課題について伺います。

下記に示す事柄について、該当する番号に○をつけてください。

13-1. 教育研修にかけられる予算上の制約が大きいと感じる。

1. はい	2. いいえ	3. どちらとも言えない
-------	--------	--------------

13-2. 教育研修について検討できる組織や専任者がいないことが問題だと感じる。

1. はい	2. いいえ	3. どちらとも言えない
-------	--------	--------------

13-3. 教育研修計画の立案、実施、評価方法を、どのように改善すればよいかわからないと感じる。

1. はい	2. いいえ	3. どちらとも言えない
-------	--------	--------------

13-4. 看護職員が求めている教育研修内容を把握できていないと感じる。

1. はい	2. いいえ	3. どちらとも言えない
-------	--------	--------------

13-5. 病院内で受講できる教育研修の機会が少ないと感じる。

1. はい	2. いいえ	3. どちらとも言えない
-------	--------	--------------

13-6. 病院内に、看護職員がインターネットを通じて情報を入手できる学習環境がある。

1. ある	2. ない
-------	-------

問 14 へき地診療所看護職への支援の状況について伺います。

14-1. 貴病院では、これまでにへき地診療所看護職に対する支援(派遣、研修等)を行ったことがありますか。

1. ある	2. ない
-------	-------

14-2. 支援(派遣、研修等)を行ったことが、「1. ある」とご回答の方に伺います。

それは具体的にどのような支援ですか。該当する番号すべてに○をつけてください。

1. へき地診療所への常勤看護職の派遣(年単位)
2. へき地診療所の看護職の産前産後休暇・育児休暇等に伴う派遣
3. へき地診療所の看護職の不在時(冠婚葬祭、研修、療養等)の派遣
4. へき地診療所看護職だけを対象にした研修の実施
5. へき地診療所看護職を対象に含む研修の実施
6. 診療所における看護に関する相談への対応
7. その他 具体的に ()

14-3. 昨年（平成21年）度、へき地診療所から看護職の派遣要請はありましたか。

1. あった	2. なかった
--------	---------

14-4. 派遣要請が「1. あった」とご回答の方に伺います。その要請をしたのはどこですか。

1. へき地診療所の看護職から直接、貴病院に要請
2. へき地診療所から公式に貴病院に要請
3. へき地医療支援機構から貴病院に要請
4. 都道府県担当課から貴病院に要請
5. その他 具体的に ()

14-5. 昨年（平成21年）度、その要請に応じて、派遣を行ったへき地診療所数、看護職の派遣回数と派遣のべ日数および派遣した看護職の実人数をお答えください。

派遣したへき地診療所数 ()ヶ所

看護職の派遣回数 ()回

派遣のべ日数 ()日

派遣した看護職の実人数 ()名

14-6. 昨年（平成21年）度、派遣要請がありながら派遣しなかった事案があれば、件数をお答えください。

派遣要請総数 ()件のうち、派遣しなかった事案は ()件

14-7. 派遣要請がありながら派遣しなかった理由について、該当する番号に○をつけてください。

1. 人員的に派遣できる余裕がなかった。
2. 派遣を承諾する看護師がいなかった。
3. 派遣にかかる費用負担が大きい。
4. へき地への看護職の派遣は、当病院の業務ではない。
5. その他 具体的に ()

14-8. 昨年（平成21年）度を含め、これまでに一度でも、へき地診療所に看護職を派遣したことがある施設に伺います。派遣要請を受けるのは、貴病院のどの部署ですか。該当する番号に○をつけてください。

1. へき地医療支援担当…貴病院内に置かれている部署名をお聞かせください。

()

2. 総務担当部局

3. 看護部

4. その他 具体的に ()

14-9. 派遣する看護職を決める、選定基準はありますか。

1. ある 2. ない

14-10. 選定基準が「1. ある」とお答えの方に伺います。

それはどのような基準ですか。下記に具体的に記入してください。

14-11. 選定基準が「2. ない」とお答えの方に伺います。

どのような方法で派遣者を決めていますか。下記に具体的に記入してください。

14-12. へき地診療所看護職から相談を受ける窓口（担当部署・担当者）は、貴病院にありますか。

1. ある 2. ない

14-13. 相談を受ける窓口（担当部署・担当者）が「1. ある」とお答えの方に伺います。

どのように受けているのか、具体的にお教え下さい。

問 15 へき地診療所看護職への支援に対するお考えについて伺います。

15-1. へき地医療拠点病院には、何らかの形で、支援をしていく役割があるとお考えですか。

1. 役割がある 2. 役割はない 3. わからない

15-2. 「1. 役割がある」とお考えの方に伺います。その役割を発揮することに、どの程度困難を感じていますか。該当する番号に○をつけてください。

1. 全く感じない 2. あまり感じない 3. 少し感じる 4. かなり感じる

15-3. へき地医療拠点病院としての役割を果たすために、課題だと思ふことがありましたら、お聞かせ下さい。

15-4. 上記の課題を克服するための方法について、お考えがありましたら、お聞かせ下さい。

今後、へき地診療所看護職への支援について聞き取り調査を実施する場合、ご協力いただく事は可能でしょうか。もし可能でしたら、連絡先を下記にご記入下さい。

<施設名>	<ご芳名>
<連絡先：住所>〒	
<連絡先：電話番号またはメールアドレス>	

ご協力、ありがとうございました。

へき地における看護の充実に向けた
へき地医療拠点病院の看護の現状と課題に関する調査

【看護師長用】

この調査票では、へき地における看護の充実に向けた示唆を得るために、へき地医療拠点病院看護職の方々の日頃の看護活動の実態等について、病棟看護管理者(看護師長)の方にお尋ねします。

へき地における看護の充実に向けたへき地医療拠点病院の看護の現状と課題

問1 あなたが勤務するへき地医療拠点病院の所在地について、都道府県名を()に記入して下さい。

都道府県名：()

問2 病院が、へき地医療支援している地域の特徴として該当する番号すべてに○をつけて下さい。

1. 過疎 2. 山村 3. 豪雪 4. 島しょ部（離島） 5. わからない

問3 病院の設立主体について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 都道府県 2. 市町村 3. 一部事務組合 4. 地方独立行政法人
5. 公的団体（日赤、済生会、厚生連、北社協） 6. 国立病院機構 7. 医師会
8. 社会医療法人 9. 医療法人 10. 社会福祉法人 11. その他

問4 病院の全病床数について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 99床以下 2. 100～199床 3. 200～399床 4. 400床以上

問5 あなたの性別について伺います。

1. 女性 2. 男性

問6 あなたの年齢について伺います。

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代

問7 あなたが採用された職種（複数免許をお持ちの場合、現在携わっている業務の資格）について、該当する番号 1つに○をつけてください。

1. 看護師 2. 准看護師 3. 助産師 4. 保健師

問8 看護職としての実務経験年数は何年ですか。

()年

問9 現在お勤めのへき地医療拠点病院に、就職を決めた理由は何ですか。該当する番号すべてに○をつけてください。

1. 地域医療に関心があったから 2. へき地医療に関心があったから 3. 出身地だから
4. 病院の近くに住むことになったから 5. その他 具体的に()

問10 あなたの現在の職位について、該当する番号に○をつけてください。

1. 師長 2. その他()

問11 現在の職位についてから、何年になりますか。

()年

問12 あなたの現在の所属病棟について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 内科病棟 2. 外科病棟 3. 内科・外科混合病棟 4. 小児病棟
5. 産科／婦人科病棟 6. 精神科病棟 7. その他()

問 13 今年（平成 22 年）度 7 月の、看護職員の時間外労働（所定の勤務時間を超えて働いた時間）について伺います。なお、1 時間未満については、小数点以下一桁までとして記入してください。

7 月 1～31 日における、貴病棟所属看護職員（正職員）の、合計時間外労働時間は、平均すると何時間ですか。

	.		時間
--	---	--	----

問 14 休暇取得の状況について伺います。

14-1. 貴病棟所属看護職員（正職員・勤続 1 年以上）の年次有給休暇はどの程度消化されましたか。

1. ほとんど消化されなかった	2. あまり消化されなかった
3. 割と消化された	4. ほぼ消化された

14-2. 週休二日制の方に伺います。貴病棟所属看護職員の週休を 1 日しか確保できない事がありましたか。

1. あった	2. なかった
--------	---------

14-3. 「1. あった」とご回答の方に伺います。その場合、どのように対応しましたか。対応方法を具体的にご記入下さい。

14-4. その他、休暇取得の現状に関するご意見がありましたら、下記にご記入下さい。

問 15 最近のあなた自身の状態について伺います。あてはまる番号全てに○をつけてください。

1. 朝起きたとき、ぐったりした疲れを感じる	2. 以前と比べて疲れやすい
3. へとへとだ	4. やる気が出ない
6. いらいらする	7. 物事に集中できない

問 16 教育研修体制について伺います。各項目について、該当する番号に○をつけてください。

16-1. 院内研修は十分行われている。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない

16-2. 院外研修を受けやすくする（時間・費用面の）支援は十分行われている。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない

16-3. インターネットを通じて、情報を入手できる学習環境について伺います。

あなたは自宅のパソコンで、自分でインターネットを通じ、情報を入手できますか。

1. できる	2. できない
--------	---------

16-4. その他、教育研修の現状に関するご意見がありましたら、下記にご記入下さい。

問 17 へき地診療所への派遣について伺います。

17-1. あなた自身は、へき地診療所へ派遣されたことがありますか。

1. ある 2. ない

17-2. 派遣されたことが「2. ない」とお答えの方に伺います。

今後派遣要請があった場合、条件（期間、待遇）次第では、へき地診療所に派遣されてもよいと考えていますか。

1. はい 2. いいえ

問 18 へき地診療所看護職への支援に対するお考えについて伺います。

18-1. へき地医療拠点病院には、何らかの形で、支援をしていく役割があるとお考えですか。

1. 役割がある 2. 役割はない 3. わからない

18-2. へき地医療拠点病院としての役割を果たすために、課題だと思ふことがありましたら、お聞かせ下さい。

18-3. へき地診療所看護職への支援に向けて、あなた自身もっている力（経験、知識、技術）を使って、できることには何があると思いますか。お聞かせ下さい。

この調査・研究に関してご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力、ありがとうございました。

へき地における看護の充実に向けた
へき地医療拠点病院の看護の現状と課題に関する調査

【主任（またはスタッフ）用】

この調査票では、へき地における看護の充実に向けた示唆を得るために、へき地医療拠点病院看護職の方々の日頃の看護活動の実態等について、病棟勤務の看護職の方にお尋ねします。

へき地における看護の充実に向けたへき地医療拠点病院の看護の現状と課題

問1 あなたが勤務するへき地医療拠点病院の所在地について、都道府県名を()に記入して下さい。

都道府県名：()

問2 病院が、へき地医療支援している地域の特徴として該当する番号すべてに○をつけて下さい。

1. 過疎 2. 山村 3. 豪雪 4. 島しょ部（離島） 5. わからない

問3 病院の設立主体について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 都道府県 2. 市町村 3. 一部事務組合 4. 地方独立行政法人
5. 公的団体（日赤、済生会、厚生連、北社協） 6. 国立病院機構 7. 医師会
8. 社会医療法人 9. 医療法人 10. 社会福祉法人 11. その他

問4 病院の全病床数について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 99床以下 2. 100～199床 3. 200～399床 4. 400床以上

問5 あなたの性別について伺います。

1. 女性 2. 男性

問6 あなたの年齢について伺います。

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代

問7 あなたが採用された職種（複数免許をお持ちの場合、現在携わっている業務の資格）について、該当する番号 1つ に○をつけてください。

1. 看護師 2. 准看護師 3. 助産師 4. 保健師

問8 看護職としての実務経験年数は何年ですか。

() 年

問9 現在お勤めのへき地医療拠点病院に、就職を決めた理由は何ですか。該当する番号すべてに○をつけてください。

1. 地域医療に関心があったから 2. へき地医療に関心があったから 3. 出身地だから
4. 病院の近くに住むことになったから 5. その他 具体的に ()

問10 あなたの現在の職位について、該当する番号に○をつけてください。

1. 主任 2. その他 ()

問11 現在の職位についてから、何年になりますか。

() 年

問12 あなたの現在の所属病棟について、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 内科病棟 2. 外科病棟 3. 内科・外科混合病棟 4. 小児病棟
5. 産科／婦人科病棟 6. 精神科病棟 7. その他 ()

問 13 今年（平成 22 年）度 7 月の、あなたの時間外労働（所定の勤務時間を超えて働いた時間）について伺います。なお、1 時間未満については、小数点以下一桁までとして記入してください。7 月 1～31 日の間に、実際にあなたが行った時間外労働は、計何時間ですか。

	.			時間
--	---	--	--	----

問 14 二交代制（あるいは当直制）の夜勤をしている方に伺います。

14-1. 今年（平成 22 年）度 7 月の、あなたの夜勤の回数は何回でしたか。 () 回

14-2. 今年（平成 22 年）度 7 月の夜勤中に、仮眠の時間は取れましたか。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 仮眠の時間は設けられていない | 2. だいたい取れた |
| 3. 取れないことがたまにあった | 4. 取れないことが多かった |

14-3. 「3. 取れないことがたまにあった」「4. 取れないことが多かった」とお答えの方に伺います。仮眠が取れなかった夜勤は何回ありましたか。 () 回

問 15 休暇取得の状況について伺います。

15-1. 昨年（平成 21 年）度、あなたが取得できるとされた年次有給休暇は、何日でしたか。 () 日

15-2. 昨年（平成 21 年）度、あなたが実際に取得した年次有給休暇は、何日でしたか。 () 日

15-3. その他、休暇取得の現状に関するご意見がありましたら、下記にご記入下さい。

--

問 16 最近のあなた自身の状態について伺います。あてはまる番号全てに○をつけてください。

- | | | |
|------------------------|----------------|----------|
| 1. 朝起きたとき、ぐったりした疲れを感じる | 2. 以前と比べて疲れやすい | |
| 3. へとへとだ | 4. やる気が出ない | 5. ゆううつだ |
| 6. いらいらする | 7. 物事に集中できない | |

問 17 教育研修体制について伺います。各項目について、該当する番号に○をつけてください。

17-1. 院内研修は十分行われている。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかというそう思う |
| 3. どちらかというそう思わない | 4. そう思わない |

17-2. 院外研修を受けやすくする（時間・費用面の）支援は十分行われている。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかというそう思う |
| 3. どちらかというそう思わない | 4. そう思わない |

17-3. インターネットを通じて、情報を入手できる学習環境について伺います。

あなたは自宅のパソコンで、自分でインターネットを通じ、情報を入手できますか。

1. できる 2. できない

17-4. その他、教育研修の現状に関するご意見がありましたら、下記にご記入下さい。

問 18 へき地診療所への派遣について伺います。

18-1. あなた自身は、へき地診療所へ派遣されたことがありますか。

1. ある 2. ない

18-2. 派遣されたことが「2. ない」とお答えの方に伺います。

今後派遣要請があった場合、条件（期間、待遇）次第では、へき地診療所に派遣されてもよいと考えていますか。

1. はい 2. いいえ

問 19 へき地診療所看護職への支援に対するお考えについて伺います。

19-1. へき地医療拠点病院には、何らかの形で、支援をしていく役割があるとお考えですか。

1. 役割がある 2. 役割はない 3. わからない

19-2. へき地医療拠点病院としての役割を果たすために、課題だと思ふことがありましたら、お聞かせ下さい。

19-3. へき地診療所看護職への支援に向けて、あなた自身もっている力（経験、知識、技術）を使って、できることには何があると思いますか。お聞かせ下さい。

この調査・研究に関してご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力、ありがとうございました。

意見・感想

<看護職確保の状況>

- ・ 県立病院（複数）として募集をかけており、各病院単位での募集はしていない。
- ・ 市立病院（複数）として募集をかけており、市役所で調整している。
- ・ 病院統廃合の予定のため、看護職の採用はなかった。
- ・ 総合病院までは、1時間要する。医師不足、看護師不足、薬剤師不足の中で運営している。特に医師不足は深刻である。
- ・ 助産師を多数募集したい。

<教育研修体制の状況>

- ・ 教育研修の責任者は兼務である。
- ・ 病院規模もあり、教育担当の専従者を配置するのは難しい。

<時間外勤務の状況>

- ・ 時間外勤務時間を記録に残していない。
- ・ ほとんどサービス残業であり、時間外労働時間は記録にでない。
- ・ 時間内に業務が終了することはなく、いつも 45 分～1 時間前に出勤し準備をしている。時間外勤務の申請をしたことがないので、時間は不明である。
- ・ 時間内に業務は終わらず、時間外勤務は数字にできない。時間外勤務手当もない。当直をしても翌日の勤務終了まで帰れない。休日出勤をしても代休はなく、2 週連続勤務は珍しくない。それでも主任だからサービス残業は当たり前だと言われる。

<休暇取得の取得状況>

- ・ 有給休暇は年 8 日程度消化するのみである。
- ・ 週休二日制をとっていない。

<派遣等、へき地医療支援の状況>

- ・ へき地診療所はなく、当院が巡回診療を行っている。
- ・ 巡回バスを利用し、週に 2 回へき地を巡回している。
- ・ 診療所専従看護師はおらず、医師も看護師も当院から診療に出向いている。
- ・ 平成 22 年に計画し、平成 23 年からへき地診療所の看護職の産前産後休暇・育児休暇等に伴う派遣を実施予定である。
- ・ 医師のみ派遣している。
- ・ 医師の派遣要請はあるが看護師はない。
- ・ 昭和 40 年代には看護師を派遣していた。
- ・ 派遣に出している日数は、3 ヶ月から 1 年と幅がある。

<調査に対する意見・感想>

- ・年次有給休暇の消化程度は評価基準がわからない。
- ・どの期間における年次有給休暇の取得状況を評価するのかわからなかった。
- ・調査結果を知ることができる工夫をして欲しい。
- ・へき地の厳しい現状を知ってもらい、何らかの支援をしてもらいたい。
- ・冬季は、遠方の子どもの家へ行ったり、ショートステイの施設に入所したりする高齢者は多い。老いても安心して暮らせる社会の仕組み作りが必要だと思う。

<その他>

- ・（支援する側ではなく）当院がへき地病院である。
- ・（支援する側ではなく）支援を受ける病院である。
- ・病院が閉鎖するため憂鬱である。
- ・県立から民間移譲となり戸惑っている。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
該当なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
塚本友栄, 春山早苗他	へき地医療拠点病院看護職の現 状とへき地診療所看護職支援と の関連	日本ルーラルナーシング 学会誌	第6巻	17-33	2011

へき地医療拠点病院看護職の現状とへき地診療所看護職支援との関連

The Relationship of working conditions of nurses in the support hospitals for rural medicine and their support for clinic nurses in rural and remote area.

塚本友栄*, 関山友子*, 島田裕子*, 工藤奈織美*, 小川朋子*,
鈴木久美子*, 成田伸*, 春山早苗*, 後藤光代**, 小谷妙子**, 渡邊芳江**,
福田順子**, 工藤祝子***, 山本恵美子****, 宮田直美*****

Tomoe Tsukamoto, Tomoko Sekiyama, Hiroko Shimada, Naomi Kudo, Tomoko Ogawa,
Kumiko Suzuki, Shin Narita, Sanae Haruyama, Mitsuyo Goto, Taeko Kotani,
Yoshie Watanabe, Junko Fukuda, Etsuko Kudo, Emiko Yamamoto, Naomi Miyata

キーワード：へき地医療拠点病院 (support hospitals for rural medicine),
へき地 (rural and remote area), 診療所看護職 (clinic nurse)

要旨

へき地医療拠点病院における看護職確保の状況、労働実態、研修体制、へき地診療所看護職支援の状況と支援に対する役割意識と困難感、およびそれらの関連を明らかにし、拠点病院看護職がへき地における看護の充実に向けてその機能を発揮するためには、どのような課題があるのかを考察することを目的とした。全国のへき地医療拠点病院に勤務する看護部長263人を対象に、郵送による自記式質問紙調査を行った。回収数は117人(回収率44.5%)であった。分析の結果、1) 拠点病院の看護職確保は厳しい状況にあった、2) 過去に支援したことがある拠点病院は32.5%であった、3) 拠点病院にへき地診療所看護職支援の役割があると考えている者は72.6%であった、4) へき地診療所看護職支援に対する困難さと労働実態の厳しさに統計的に有意な関連はなかった、5) 質的分析によりへき地診療所看護職支援に関わる課題を表す12カテゴリが導出された。

Abstract

The purpose of this study was to examine the relationship of working conditions of nurses in the support hospitals for rural medicine and their support for clinic nurses in rural and remote area. And it also aims to qualitatively examine their recognition to their support for clinic nurses in rural and remote area. A nationwide survey was conducted. Data were obtained using questionnaire, which investigates the working conditions of the hospital nurses and their support for clinic nurses, and which included open-ended question about their recognition to their support for clinic nurses. The subjects were 263 nursing directors working in the support hospitals for rural medicine. One hundred and seventeen nursing directors responded (44.5% response rate). Results were as follows: i) there was an insufficient number of support hospital nurse ; ii) 32.5% of the support hospitals for rural medicine had supported clinic nurses in rural and remote area; iii) 72.6% of the support hospitals for rural medicine recognized that they had a roll to support the clinic nurses in rural and remote area ; iv) there was no significant difference between the hardness to support and the

受付日：2010年12月24日 採択日：2011年2月25日

* 自治医科大学看護学部 Jichi Medical University, School of Nursing

** 自治医科大学附属病院看護部 Jichi Medical University Hospital

*** 日光市民病院看護部 Nikko Citizen's Hospital

**** 西吾妻福祉病院看護部 Nishi-Agatsuma Welfare Hospital

***** 那須南病院看護部 Nasuminami Hospital

working conditions of support hospital nurse; v) the twelve problem to be solved were derived from content analysis.

I はじめに

第9次へき地保健医療計画において、それまで二次医療圏単位で実施されてきたへき地診療所への支援の限界を補填するために、へき地中核病院とへき地医療支援病院を再編成し、へき地医療拠点病院群（以下、拠点病院）を構築、へき地医療支援機構を創設して、都道府県単位の広域的なへき地医療支援対策が組織的に可能となるような体制へと移行した。第11次へき地保健医療対策検討会はこのへき地医療支援機構に対して、医師だけではなく看護師等医療従事者に対しても支援を拡大していく必要性¹⁾を指摘した。

拠点病院は、へき地医療支援機構の指導・調整の下にへき地診療所等への医師・看護師等医療従事者の派遣、研修、遠隔診療支援等の各種事業を行い、へき地を含む地域における住民の医療を確保する重要な役割を担っている。しかし現実には、医師派遣等の支援は十分なされていない²⁾と指摘されている。

先行研究は、へき地診療所看護職が限られた資源のなかで、住民特性や地域特性に合わせた看護の提供を期待されていること³⁾や、研修・研鑽できる機会が少なく、看護活動に関して相談できる人がいない等の問題を抱え、支援体制が不十分な中での実践を余儀なくされていること⁴⁾などを明らかにしており、へき地診療所看護職の現状理解は進みつつある。一方、支援する側にある拠点病院看護職の現状は、明らかではない。

「2007年度当初の看護職員確保緊急アンケート」⁵⁾によれば、一般病床をもつ全国3,000病院のうち、予定した看護職員数を確保できた病院は37.9%にとどまっていた。病院立地条件による違いはみられなかったものの、病床数では200床以上とそれ以下の病院によって確保割合に差があった。また「2009年病院における看護職員需給状況調査」⁶⁾によれば、新人看護職員の教育研修体制が十分に整備されている病院は36.9%にとどまっていた。このような全国的な傾向から推察し、支援する側にある拠点病院自体が看護職の確保や、教育研修体制の整備等に困窮している可能性が考えられる。そのような現状にあっては、へき地診療所看護職への支援もなされにくいと推察される。

以上に鑑み、へき地診療所看護職への実質的な支

援を推進していくためには、拠点病院看護職の現状として、看護職確保の状況、労働実態、研修体制、へき地診療所看護職支援の状況と支援に対する認識などを把握し、それらの関連を解明することが必要と考えられる。

II 研究目的

へき地医療拠点病院における看護職確保の状況、労働実態、研修体制、へき地診療所看護職支援の状況と支援に対する役割意識と困難感、およびそれらの関連を明らかにし、拠点病院看護職がへき地における看護の充実に向けてその機能を発揮するためには、どのような課題があるのかを考察することを目的とする。

III 研究方法

1. 対象

調査対象は、全国のへき地医療拠点病院263施設（平成20年3月現在）に勤務する看護部長とした。へき地医療拠点病院は、平成21年度へき地医療現況調査⁷⁾から把握した。

2. 調査項目と調査項目作成プロセス

1) 調査項目

(1) 基本属性：回答者の基本属性として性別、年齢、現在所属する拠点病院における勤務年数および看護部長としての勤務年数、看護部長職以外に保有する職階を尋ねた。また、所属する拠点病院の基本属性として、所在地、設置主体、医療支援しているへき地の特徴、全病床数、一般病棟入院基本料の算定状況、就業者数等を尋ねた。

(2) 看護職確保の状況：日本看護協会の「2007年度当初の看護職員確保に関する緊急アンケート」および厚生労働省の「看護職員需給見通し」の調査項目を参考に、平成22年4月における看護職の募集人数および採用数等を尋ねた。

(3) 労働実態：日本看護協会の「看護職員実態調査」の調査項目を参考に、平成22年7月における看護職（病棟勤務・正職員）1人あたりの平均時間外勤務、年次有給休暇取得状況等を尋ねた。

(4) 教育研修体制：日本看護協会の「病院における看護職員需給状況調査」を参考に、教育研修責任者の配置、看護単位毎の担当者配置、新卒看護職

員研修の企画・評価組織の設置の有無について尋ねた。また、院内教育の課題を明らかにした先行研究⁸⁾を参考に、教育研修体制上の課題として、「教育研修にかけられる予算上の制約が大きいと感じる」、「教育研修について検討できる組織や専任者がいないことが問題だと感じる」などの6項目について「はい」、「いいえ」、「どちらとも言えない」の3件法で尋ねた。さらに、院内に看護職員がインターネットを通じて情報を入手できる学習環境があるか否かを尋ねた。

(5)へき地診療所看護職への支援の現状:支援(派遣・研修等)実施の有無と、その内容を「へき地診療所への常勤看護職の派遣(年単位)」、「へき地診療所の看護職の産前産後休暇・育児休暇等に伴う派遣」などの7項目によって尋ねた(複数回答可)。また、派遣を要請された経験の有無と、要請してきた部署を「へき地診療所看護職から直接」、「へき地医療支援機構」等の5項目によって尋ねた(複数回答可)。要請に応じて派遣した場合には、派遣した診療所数、のべ派遣回数・日数、実人数を尋ねた。要請に応えられなかった場合には、応えられなかった回数およびその理由を「人員的に派遣できる余裕がなかった」、「派遣を承諾する看護師がいなかった」等の5項目によって尋ねた。さらに、派遣要請を受ける窓口を「へき地医療支援担当(部署名を具体的に記入)」、「看護部」等の4項目によって尋ねた。加えて、派遣看護職の選定基準の有無、基準がある場合は基準の内容、基準がない場合は具体的な選定方法を自由に記述するよう求めた。

その他、へき地診療所からの相談を受ける窓口の有無と、窓口担当部署および担当者を具体的に記述するよう求めた。

(6)へき地診療所看護職への支援に対する役割認識と困難感:へき地診療所看護職を支援する役割認識について「役割がある」、「役割はない」、「わからない」の3件法で尋ねた。役割認識がある場合は、役割遂行に対する困難感を「全く感じない」、「あまり感じない」、「少し感じる」、「かなり感じる」の4件法で尋ねた。また、役割遂行上の課題とその克服方法について自由に記述するよう求めた。

2) 調査票作成のプロセス

日本看護協会が実施した調査の調査項目や先行研究を参考に自作した調査票案を用いて、医療資源の乏しい地域における看護活動の経験と知識をもつ病院看護管理者およびへき地医療に詳しい医師を対象に予備調査を実施し、質問内容の妥当性や表現上の

問題について確認・修正した後、最終的な調査票を作成した。

3. 調査方法

郵送法により調査した。対象者には無記名の調査票と料金後納の返信用封筒を郵送した。調査期間は平成22年9月14日～11月12日であった。当初設定した期日までに回収された調査票が少なかったため、期日を約1ヶ月延長し、調査協力を依頼する文書を郵送した。

4. 分析方法

量的データは、単純集計、 χ^2 検定等の統計学的手法を用いて分析した。自由記述の回答は質的に分析した。統計解析ソフトは、SPSS for Windows(Ver. 19.0)を使用し、検定の際の有意水準は5%とした。

5. 倫理的配慮

調査への協力依頼文書に、調査の趣旨、調査への協力は自由意思であること、協力する場合でも答えたくない質問には答えなくて良いこと、調査票は無記名であり個人や病院名は特定されないこと、回答は本研究の目的以外には使用しないこと、調査票への回答・返送をもって調査協力への同意とみなすこと、調査に関する問い合わせ先を明記し、調査票と共に送付した。なお、本研究は所属機関の疫学研究倫理審査会の承認を得て行った(受付番号 第疫10-21号, 2010年9月2日承認)。

IV 研究結果

回収された調査票117通(回収率44.5%)を分析対象とした。

地域別では、北海道・東北地域が配付39通に対し回収が23通(59.0%)と最も回収率が高く、関東・甲信越地域が配付30通に対し回収15通(50.0%)、北陸・中部(東海)地域が配付39通に対し回収18通(46.2%)、関西・四国地域が配付67通に対し回収28通(41.8%)、九州・沖縄地域が配付48通に対し回収20通(41.7%)、中国地域が配付40通に対し回収13通(32.5%)であった。

1. 基本属性

回答者の性別は全員が女性、年代は50歳代が100人(85.5%)と最も多く、次いで40歳代10人(8.5%)であった。現在の病院における勤務年数は、平均 21.5 ± 12.1 年であり、65人(55.5%)が25年以上